

主体的に学び、生きる力をはぐくむ、新しい放送教育を創造しよう

自ら学び、自ら考え行動する生徒の育成

ーメディア教材の積極的な活用を通してー

メディア教育研究部会

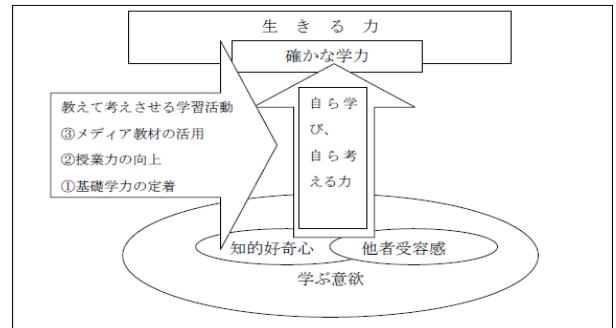
1 研究主題について

生徒は、体育祭や遠足、文化祭など伝統的
学校行事に意欲的に取り組んだり、朝のあいさつ
運動や清掃などの自主的な活動にも取り組ん
だりしている。学習面においては落ち着いて授
業を受けることができているが、家庭学習の
習慣がついていないために基礎学力の定着が
不十分である。また、判断力が乏しく、何事
においても「考える」習慣の必要性が見られ
る。

そこで「教える」「考えさせる」に着目し
た授業力の向上と基礎学力の定着、メディア
教材の有効活用に力を注ぎたいと考えた。メ
ディアを活用した「教えて考えさせる授業」
を通して、めざす生徒像として「自ら学び、
自ら考えることができる生徒」を設定し、授
業改善の柱として次の3つを考えた。

- (1) 基礎学力の定着…朝学習の充実や授
業中の小テストなどにより、わかる・でき
る・喜びを実感し、努力すればできたとい
う達成感や成就感を生徒に味わわせる。
- (2) 授業力の向上…「教える」と「考
えさせる」の両面から授業自体を抜本的に
見直す。知識の確実な習得に向けて、授
業評価アンケートを利用して生徒理解に努
め、習得型授業のあり方を考える。また、
活用型・探求型の授業へと授業の転換を
図ることで授業力の向上につなげる。
- (3) メディア教材の有効活用…各教科・
特別活動・道徳の時間・総合的な学習の
時間等に活用できるメディア教材を吟味・
開発し、特に『知的好奇心』を高めるた
めの有効活用を図る。

ここでいう『知的好奇心』とは「わくわ
くした気持ちをもって学習にのぞんでいる」
「学習中、もっとしたいことや調べたいこ
とが浮かんでくる」という生徒の気持ちを
意味する。



以上の考えに基づき、研究主題を「自ら
学び、自ら考え行動する生徒の育成ーメ
ディア教材の積極的な活用を通してー」と
し、研究仮説を以下のように設定した。

〈研究仮説〉

「教える」場面と「考えさせる」場面、
つまり活用型を内包した習得型授業を中
心に展開していくことで、生徒は基礎
学力の定着、そして教師は授業力の向
上を図ることができる。さらに、その
活動の中にメディア教材を積極的に活
用していけば、学習の理解度がより深
まるとともに『知的好奇心』を中心と
した学習意欲の向上に有効であろうと
考える。

2 研究の概要及び大会内容

(1) 研究の概要

習得型学習において、『知的好奇心』
を高めるために、メディア教材を全教科
で積極的に活用することの有効性につ
いて検証する。

①「意欲のみなもと」調査結果から

昨年度、香川県教育センターが「学
ぶ意欲のみなもと」として『必要感』
『知的好奇心』『有能感』『自己決定
感』『他者受容感』の5つを提案した。
生徒へのアンケート調査結果から、課
題を『知的好奇心』『他者受容感』の
2つに焦点化し、この点を解決してい
くために、研究の方向性を次のよう
に考えた。

- ・研究の視点として、『知的好奇心』
『他者受容感』を強く意識する。

- ・『知的好奇心』はメディアを有効活用
する。

・『他者受容感』は「教えて考えさせる授業」を意図的に実施していく。

②『知的好奇心』を高めるための実践

- ・学習への興味づけをする。
- ・生徒による信念や先入観を利用する。
- ・足掛かりになる知識を与える。
- ・既存の知識に疑問を投げかける。

③「教えて考えさせる授業」における実践

教える→考えさせる 1（理解確認）

→考えさせる 2（問題解決）

→考えさせる 3（自己評価）

（2）大会内容

平成22年11月11日、香川県中学校教育研究会メディア部会研究大会が、上記研究主題のもと坂出市立東部中学校において開催された。

①研究の概要説明

発表者： 池下 一顕

②公開授業

1年理科 物質の姿と状態変化

授業者： 島根 雅史、出石 伸郎

活動内容： ～酸素の状態と温度の関係を、モデルで表そう～

物質は、加熱や冷却で状態変化をすることを液体窒素を用いた演示実験で振り返った。次に、酸素が液体から気体に戻る様子をモデルで表し、班で話し合い、固体の場合のモデルも予想した。その後、固体、液体、気体の各状態を実験的に再現した映像を見て、粒子の運動についてのイメージを深めた。

2年 保健体育 傷害の防止

授業者： 池下 一顕

活動内容： ～正しい応急手当法を知り、AEDを正しく使えるようになる～

映像を見ながら、正しい応急手当を知り、実技のポイントを確認した。次に、映像でAEDの使用法を知り、使用法の確認をした後、実際にAEDトレーナーを使いグループで交代しながら実習を行った。他者受容感を高めるために、グループ内のできたときの賞賛やつまずいたときのアドバイスを積極的に心がけさせた。

3年 道徳 「いのちの大切さを伝えて」

授業者： 南 美紀

活動内容： ～輝いて生きるとは、どういうことなのだろうか～

まず、DVD前半を視聴し、不慮の事故で亡くなった人や母親の気持ちを想像し、親の子どもへの思いを考えた。その後、DVDの後半を視聴し、母親が子どもの死を乗り越えられたのはなぜかを考えた。そして自分の親たちからのメッセージをTVで見て、親の思いを知り自分の考えを板書し、友達の考えからも学ぶ機会となった。

3 成果と今後の課題

（1）成果

・各教室にICT機器が設置されたことにより、全教師が積極的に利用して授業を行おうという意識が高まり、教材研究が入念となり、授業力の向上へとつながった。更に、有効な場面や内容を教師が選択したり、見せる目的を明確にしたりして授業づくりを行ったことが、生徒の『知的好奇心』を高める手立てになった。

・メディアを使用することによって、事象のイメージ化が図れたり、板書の時間の節約になったりするので、より深く考える活動に展開することが可能になった。

・映像に対する生徒の興味関心は高いので、学習意識の低い生徒に対しては、文字資料よりも映像等を使用した方が、授業に集中させることができた。

（2）今後の課題

・『知的好奇心』高めるためには、生徒の学習における自由度も必要で、インターネット、動画が自由に見られる活動は不可欠である。さらには、機器の円滑な操作に向けた教員研修と、授業が行いやすい教室環境への整備が必要である。

・映像と文字資料の組み合わせにより、消えてしまう記憶を補足する必要がある。

・もっとメディア教材の共有化を図るよう、学校全体での手立てが必要である。



1 年理科 授業風景



1 年理科 授業風景



2 年保健体育 授業風景



2 年保健体育 授業風景



3 年道徳 授業風景



3 年道徳 授業風景